

会 議 録

会議の名称		令和 2 年度つくば市バースセンターに関する懇話会		
開催日時		令和 2 年 7 月 3 日 開会 18:30 閉会 19:30		
開催場所		本庁舎 2 階 会議室 203		
事務局（担当課）		健康増進課		
出席者	委員	黒田勇二（なないろレディースクリニック理事長） 小森久江（茨城県つくば保健所長代理 健康増進課長） 北口ひとみ（つくば市議会文教福祉常任委員会議代表） 間野聡子（市民委員 NPO 法人ままとーん代表理事）		
	報告者	濱田洋実（筑波大学附属病院つくば市バースセンター部長） 鈴木将貴（筑波大学病院総務部専門員）		
	事務局	小室部長・吉原次長・岡野課長・小野村統括保健師 森田係長・坂本主事		
	その他	戸澤（茨城県つくば保健所健康増進課：見学者）		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	0 人
非公開の場合はその理由				
議題		1 報告 (1) つくば市バースセンターの利用状況及び寄附講座について (2) つくば市バースセンター施設整備の進捗について (3) 市民アンケート調査結果について 2 意見交換		
会議録署名人	—	確定年月日	令和 年 月 日	
会議次第	1 開会			

様式第 1 号

	2 委嘱状交付 3 部長挨拶 4 委員及び報告者紹介 5 事務局紹介 6 報告事項 (1) つくば市バースセンター利用状況及びつくば市寄附講座について (2) つくば市バースセンター施設整備の進捗について (3) 市民アンケート調査結果について 7 意見交換 8 その他 9 閉会
--	---

< 報告事項 >

事務局	開会
保健福祉部長	委嘱状交付 挨拶
事務局	委員自己紹介 事務局自己紹介 座長決定
座長	座長挨拶
報告者 1	資料 3 に基づきバースセンター施設整備の進捗状況の報告。

様式第 1 号

報告者 2	資料 1、2 に基づき、バースセンター利用状況、つくば市寄附講座について（報告）
事務局	資料 4 に基づき、市民アンケート調査結果について（報告） （意見交換）
委員 A	市民アンケート調査結果のところで、令和 2 年 3 月 31 日までの調査期間対象をまとめておられるので、コロナになってからの、お気づきになったところがありましたらお聞きしたいです。
事務局	（令和 2 年）3 月末まで、あかちゃん訪問を実施していて、4 月 5 月は中止していましたが、病院から連絡があった方、特に強い御要望のある方は、コロナの中でも必要と判断し訪問を継続しています。全体的にあかちゃん訪問の実施は難しく、対象者を把握していましたが、お電話対応で、不安な事等お聞きし、6 月に入ってから訪問を行っております。
委員 B	分娩数ですが。市内の医療機関のアンケート調査で、なないろレディースクリニック、筑波大学附属病院の産科病棟、学園病院、バースセンター、それぞれのベッド数が知りたいです。なないろレディースクリニックでは年間 1,000 件ぐらいの分娩があるというお話でしたが、病院のベッドの数だけみても、出産数が多いのかどうか、よくわからないと思いました。また寄附講座は、先生方 3 名が中心で、研究を行っている理解で大丈夫ですか。また、今のバースセンターのベッド数と、病床数を今回増やしていく目的、どのような背

様式第 1 号

座長	景でこの計画になったのかというところをお聞きしたいです。 ベッド数はクリニックですので 19 床ですが、お産は読めないの で予備のベッド、助産院も併設しているという形をとっています。 実質 24 床ぐらい、90% ぐらいはいつも動いています。患者さんの 要望が大学とは違いますので、分娩予約が割と早く埋まってしまう ということで、ある程度分娩数がトータル的に減ってこない限り、 現状ある程度、2 月ぐらいは分娩数減ってくるのかなと言われてい ます。私、民間産婦人科の団体の理事で熊本の福田病院も含めて全 国 30 ぐらい、1,000 件以上扱っている病院の団体に所属していて、 分娩数は、報告であったように 6 % 減って、軒並み分娩制限かけて ないところは、分娩が 200、300 減ったということで、出生数、不 妊治療の生殖医療やっているところもコロナの影響で落ち込んで、 1 月 2 月の妊娠数も、うちは不規則で妊娠したら来院という形態を とっていますが、2 月ぐらいから、埋まりが悪いので、出生数全体 が減るかなとは思います。あとは大学病院でこれだけの数をやって いるのは国立でも筑波大、東大はじめ数カ所しかなくて、バースセ ンターもこれだけやっているのだなあとと思って。大学病院は、私の ところで困った方を全部診ていただいているので、相当数他の大学 に比べて、やっているような印象です。今度バースセンターを改築 するということで、全体的に病棟変えるのですか、先生。
報告者 2	産科 26 床で、バースセンター 6 床ですが、それを 12 床にする ということですね。
座長	大学は、病床があったから入れるわけではなく、全部制限なく、

	とってもらっています。研修医が、全国でもこんなに産婦人科に入局するのかっていうくらいいるので、このバースセンターも影響しているのかもしれない。非常に有効に発信しておられるかな。学園病院は、不妊に力を入れている病院で、うちからも学園病院に手術等をお願いするケースもよくあります。うちにとりかかりとして来院してということもあるので、一概に数だけでは言えないと思います。なにかあったらすぐ分娩数がなくなってしまうことも十分考えられるので、大学がしっかりこうあっていただけるというのは非常にありがたいところではあります。何か補足を。
報告者 2	十分です。先程、2 番目の研究は、バースセンター以外での産科の研究は全部我々 3 人中心で、大学全部の産婦人科、婦人科も入れた中の産科の研究は全部我々 3 人が中心でやっているなので、3 人以外の名前が入っているということになります。
座長	他に、御意見ありますか。
委員 C	ありがとうございました。資料 4 で、事務局から御報告を受けたアンケートの中の、市内で予約が取れなかったという方がいるというところですが。結構いらっしゃるのだなというのと、つくば保健所は、つくばみらい市と常総市も管轄しているので、結構守谷地区でお産している方も多くて、つくば市の方も結構守谷に行かれる方も多いというのは聞いていますが、バースセンターが増床されたりすると違ってくるのかなという印象でしたが、つくば市の健康増進課では結構ご相談とか、市内でお産ができなくてなんていうのはおありなのかと。

様式第 1 号

報告者 2	このアンケート、毎年予約が取れなかったっていうのが数十名出るのですが、取れないわけがないですよ、うち断ってないので。一定数に達すれば、なないろレディースクリニックと学園病院も断っている。毎年お話ししますが、やっぱり大学病院というのはとても敷居が高いので、自分がそこで予約を取るということがまったく考えられなくて、もっと正確に言うと、なないろレディースクリニックで予約が取れなかったって意味ですよ。ほぼ、そういうことに。大学は明日お産の人が来ても受け入れるし、どこの病院にもかかったことがない人がいきなり救急車で来ても受け入れているので、予約が取れないわけではないのですけれども、やはりいくら発信しても、一般の方には理解できないところが当然あると思うので、一定数は仕方ないなと思っています。ただ、つくば市民が母子手帳取りに来た時に、すぐ情報提供していただければ。実際正常産の多さも全国一ですよ、うちの大学病院は。去年東大に負けましたけれども。国立では第 2 位なので、その前の年は 1 位だったですけどね。東大もうちもそうですけれども正常産が多くて、こんなに正常産が多い大学っていうのは少なくて。大抵、普通大学病院のお産は 300 とかくらいです。そんなに敷居が高い病院じゃないですよってことを市のほうからでも言っていただければいいじゃないかなというふうに思っています。
委員 C	ありがとうございます。とても心強くて今日来てよかったなと思っていました。保健所の職員でさえ、大学病院って普通の妊婦さんは受診できないという意識がありましたので、ハイリスクの方が中心にお世話になっているかなと思っていました。心して相談に対応していただいいていこうと思います。ありがとうございます。

様式第 1 号

座長	あと、我々産婦人科のいろんな全国の民間の開業医の先生の集まりがあると、つくば市は特異的で、分娩数が 2,000 件で今ずっと維持されているのですが、茨城県を見ても、この 6 %以上へこむところが多々出てきて、この人口ピラミッドからするとたぶん、2030 年には 40 万人出生数切る可能性があって。こう近隣を見た中でもつくば市はまだ本当に恵まれている。大学もあるし、いろいろあるしということですけど。茨城県内で見ても本当に特異的な。あと、過疎化が急激に進んでいますので、筑波大の先生がこれからどんどん産科の先生も出てきてくれると思って、いろいろ地域に行かれるかとは思いますが、人口、出生数がたぶんコロナもあいまって、この表が年々右肩下がりになることも十分あるので、つくばがこれだけ赤ちゃんがいて、すごいねってどの先生も言われるような街ですね。バースセンターがこれから数も増やしていられるかとは思いますが、大学病院の機能は十分発揮されて、研修も入られると思うので、ありがたい存在ではあります本当に。
委員 B	今まで、ままと一んで、赤ちゃん連れでいらっしゃるお母さんのお話と聞きますが、バースセンターで産みたかったけれど駄目でしたとか、産みましたという話を聞く機会がなくて、それで、基本リスクが高い方は産科病棟のほうにいかれると思いますが、どんな基準でバースセンターで産めますか。
報告者 2	基準は、結構うちは厳しくて。日本助産師会、日本産婦人科学会で、こんな患者さんだったら、助産師主導でもいいですよって言っているようなガイドラインを出していて、基本的にはそれに準拠しています。ただ相当厳しい基準なので、少しずつ緩めていて、最初

座長	は助産師が非常に怖がっていました。例えば年齢であるとか、基準を少しずつ緩めてきています。今 6 床で別にやっていて、お断りもしていないわけですから、12 床になるに向けて、もうちょっと守備範囲を広げるような研修とかを今助産師と一緒にやっていて、産まれてからこのかた一定期間、何かの病院から薬をもらって飲んだことがあるというような人は全員断っていましたが、そうするとご本人にしてみれば、中学の時にちょっと病気して 2 週間入院しただけなのになんで断られるの、みたいな感覚だと思いますが、少しずつ緩めています。一般の方が自分はリスクが低いって思っている感覚と、僕たちから見たリスクが低いっていう感覚がずれているところがありますし、逆もあって、自分はリスクが高いです、という話をされていて、どう聞いてもリスクが無い方もいるから、医学的に過去の研究からこういう人はよくない、こういう人は割と安全な方だっということとは分かってきていますから、そういうのを啓蒙するっていうことも必要かなと思っています。あとは、妊娠してみないと分からないというところがあって、まったく問題なかった人が妊娠した途端にトラブルが出てくるっていうのもあるので、リスクが無いことが分かっているけど、何か妊娠中に発症するとか、何か起これば途中からバースセンターから外れるので、正確に 2 割 3 割は途中で外れますよね。一番多いのは妊娠糖尿病ですが、そういう方はあとで聞くとバースセンターで産めませんでしたっていう御感想になるかなと思っています。 そのほか皆さまから御意見・御質問等ございませんか。意見交換とは別に、何かほかに発言がありましたらお願いいたします。
----	---

様式第 1 号

委員 C	今、新型コロナの感染の中で、お産をしていく環境で、先生方がすごく大変なところや、コロナの影響とかで大きく変わった部分等あるでしょうか。
座長	私のところは、患者さんが求めるものは極力お受けするってことをやっていましたが、立ち会い分娩も、面会も旦那さんだけ、短時間 15 分で限って、家族滞在で一緒にいいですよとかみんなでワイワイご飯を食べてっていうのをなくして、そういった中でも立ち会いをさせてもらって、他の病院がまだやってない時、極力東京勤務の方とか、熱がある方とか当然入れませんが。母親学級等も止めていますけど、ZOOMでやっていきたいと考えて、今までやってきたサービスを継続できたらと思ってやっています。先ほど言った開業医の方の全国の団体がありますけど、実際コロナが出てしまった病院は2つあって、職員が感染したり、患者さんの旦那からうつったり報道されていませんが、その病院の半分くらいが機能を停止しちゃうということがありましたので、うちのスタッフもみんな気をつけています。つくばで、もしコロナなんか出てきてしまった場合は、大変かな。いろいろ予防はしています。あと、マスクを最近ユニクロから 3,000 枚くらい貰っています。そういう支援があって、助かってはいますけど、ジワジワと今日も茨城県が 6 人っていう話を聞いたので。大学病院はまたちょっと違うでしょうから。
報告者 2	大学病院全体として面会禁止になっています。立ち会いをやめていて、面会も基本的には全てお断りしています。実際は荷物持ってきたついでに短時間でということは黙認しています。基本的には、当然マスクしてもらって。病院全体の方針と齟齬が無いように、統

様式第 1 号

	一するという意味でやっています。あとは、妊婦さんに、お産の時全員マスクしてもらっています。以前よりはきちんとした防護服を助産師・医者は着ています。分娩の時はうつりやすいのではないかなというのが一応あるので、本当かどうかは分かりませんが。妊婦さんは重症化しにくいというのが最初のころのデータでしたが、最近はやっぱり重症化しやすいっていうデータがいっぱい出てきているので、最大限のいろいろな、やれることはやっているというところなんです。
座長	ありがとうございます。他にありますでしょうか。では、以上で意見交換等は終了しましたので、これで座長の任を解かせていただきます。ありがとうございました。
事務局	皆様、大変ありがとうございました。以上で、つくば市バースセンター懇話会を閉会させていただきたいと思います。なお、こちらの懇話会につきましては、年に 1 回程度の予定で開催をさせていただいております。今後とも、御協力を賜りますようお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

令和２年度つくば市バースセンターに関する懇話会次第

日 時：令和２年７月３日（金）

午後６時３０分から

場 所：つくば市役所２階 会議室 203

１ 開 会

２ 委嘱状交付

３ 部長挨拶

４ 委員及び報告者紹介

５ 事務局紹介

６ 報告事項

（１）つくば市バースセンター利用状況、及びつくば市寄附講座について

（資料１、２）

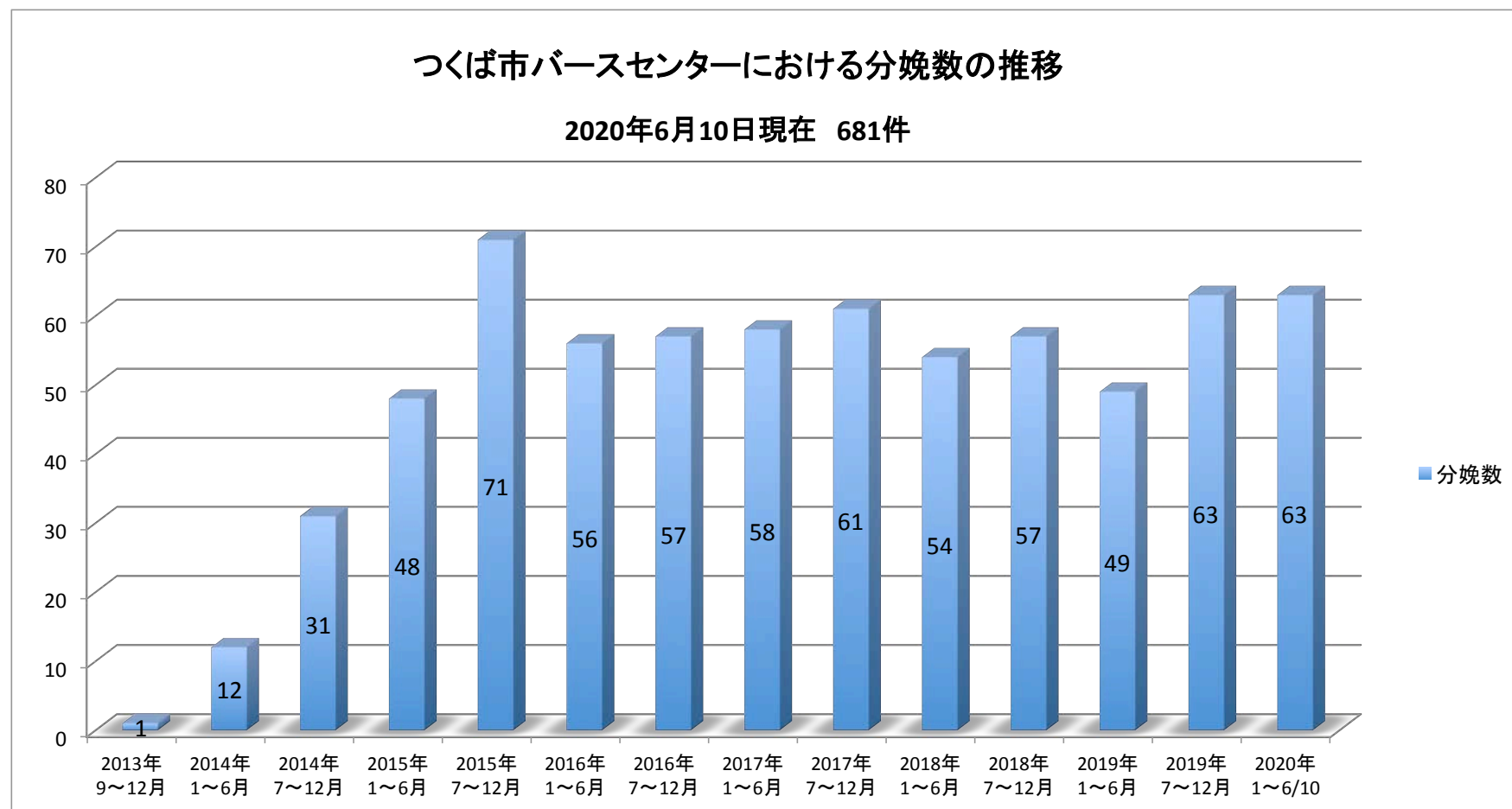
（２）つくば市バースセンター施設整備の進捗について（資料３）

（３）市民アンケート調査結果について（資料４）

７ 意見交換

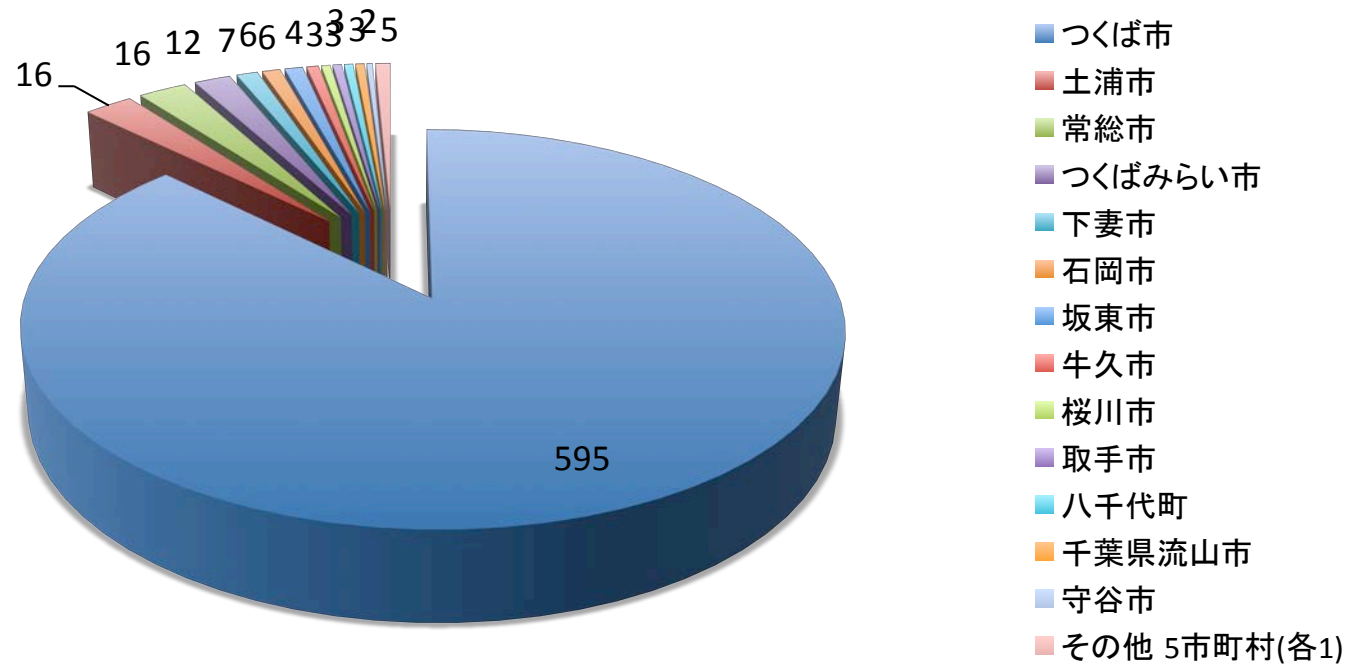
８ その他

９ 閉会



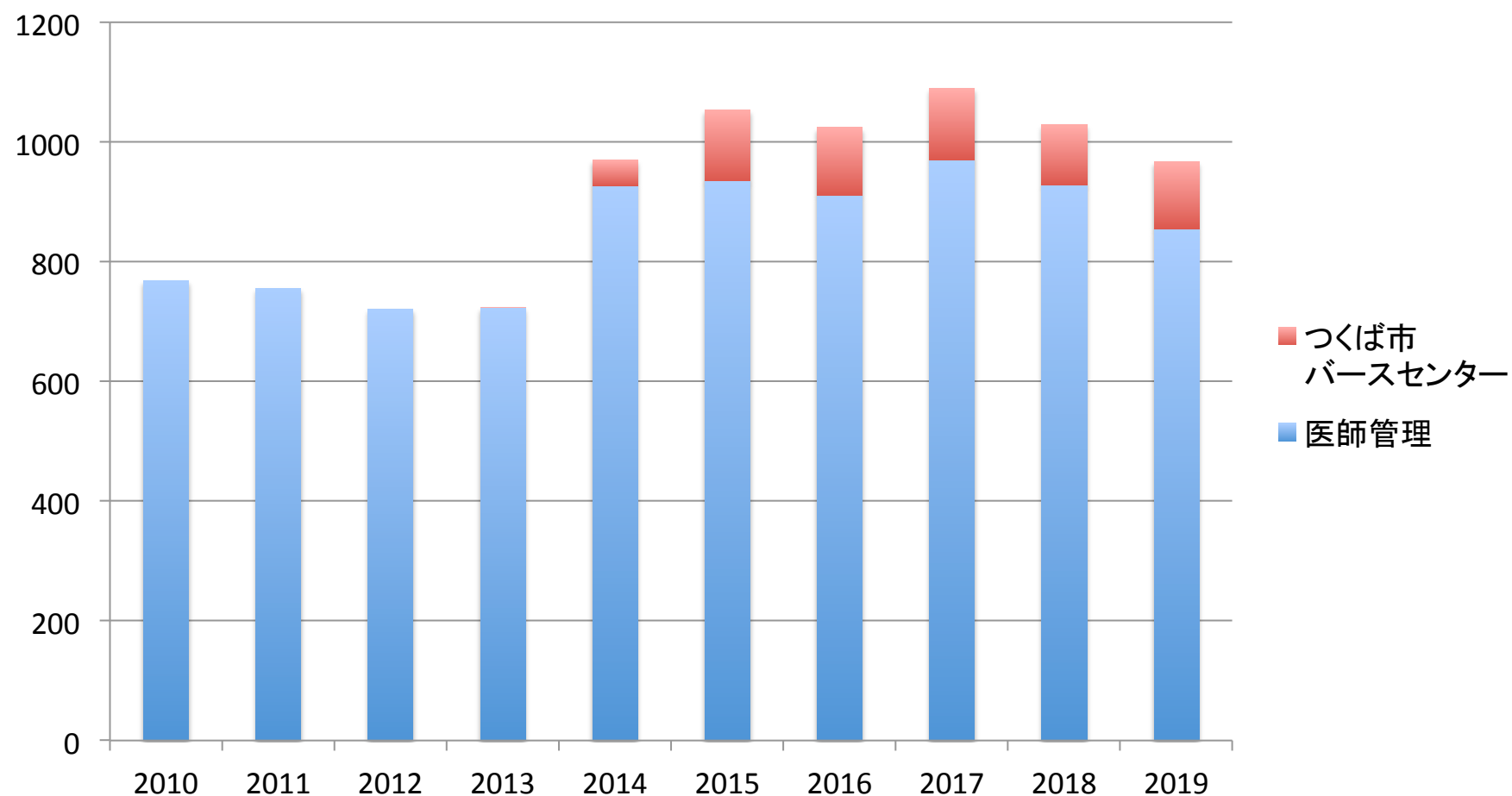
つくば市バースセンターで分娩した女性681名の住所地

つくば市民の割合＝87.4%



※ 里帰り分娩の場合は実家の住所地を示す

筑波大学附属病院における年間分娩件数の推移



2020 年 5 月 11 日

【寄附講座構成員】

- ・ 教 授 : 濱田 洋実
- ・ 准教授 : 小島 真奈
- ・ 講 師 : 大原 玲奈

【教育について】

本寄附講座の目的は、地域周産期医療体制の充実・向上のために、周産期医療を担う医師及び助産師の養成・確保を行うこと、将来にわたってつくば市民の安全で安心な出産の場を安定的に提供すること、の 2 つである。これらの目的の達成のために、筑波大学附属病院内につくば市バースセンターを設置した上で、筑波大学医学群および大学院人間総合科学研究科の学生、ならびに医師免許・助産師免許を取得したばかりの者等に対する周産期医療教育を遂行している。

医学生ならびに初期臨床研修医に対しては、産科臨床教育を通じて周産期医療に従事する魅力を伝えるとともに、地域における周産期医療の重要な役割について十分理解させることに努めている。この結果、2019 年度に新たに後期臨床研修として筑波大学附属病院において産婦人科を専攻する 8 名の医師の誕生に寄与することができた。このうち 4 名について、今年度を通して本寄附講座で地域周産期医療に関する研修を行った（残り 4 名については、今年度は県内の他の施設で研修を行っており、来年度、本寄附講座での研修が予定されている）。加えて、2018 年度までに産婦人科の後期臨床研修を開始した 18 名について、引き続き周産期医療教育を遂行した。これらの医師は、つくば市における地域周産期医療体制の充実・向上に寄与すると考えられる。医学生については、筑波大学医学群医学類 42 回生全員に対して、4～5 年生時の 1 名 2 週間の臨床実習を通して周産期医学の教育を行うとともに、特につくば市を中心とした地域における周産期医療従事の実態を説明、その魅力を伝えた。今後も引き続き、これらの初期臨床研修医ならびに医学生に対する教育を継続していく。

一方、助産師については、助産師免許取得を目指す大学院人間総合科学研究科の学生、および入職・異動により新たに筑波大学附属病院のつくば市バースセンターもしくは産科病棟における勤務を開始した助産師に対して、周産期医療教育を通じて、特につくば市を中心とした地域において助産師として勤務する魅力を伝えることに尽力している。2019 年度は、大学院人間総合科学研究科看護科学専攻前期助産師課程の 4 名の学生、ならびに入職・異動により新たに筑波大学附属病院のつくば市バースセンターもしくは産科病棟における勤務を開始した 9 名の助産師に新たに周産期医療教育を行った。

【研究について】

上記した本寄附講座の目的を達成するために、周産期医療に関する様々な研究を遂行している。これまでの成果は、学術誌への論文（英文・和文）発表ならびに様々な学会発表を通じて公表してきた。研究内容は周産期医療領域全般の多岐にわたるが、これらの研究成果を通じて、つくば市における周産期医療の充実・向上に寄与することができたと考えており、来年度以降も引き続き様々な研究を積極的に遂行していく計画である。

なお、2019年1月～12月の具体的な研究業績（英文原著論文5件、和文原著論文4件、その他論文・著書12件、学会発表19件、その他発表2件）の詳細を、以下の「研究業績一覧」に示す。

筑波大学 つくば市寄附講座総合周産期医学 研究業績一覧（2019年度）

※ 本寄附講座構成員には下線を付した。

【論文】

<英文原著論文>

Kei Miyakoshi, Atsuo Itakura, Takayuki Abe, Eiji Kondoh, Yasuhisa Terao, Tsutomu Tabata, Hiromi Hamada, Kyoko Tanaka, Mamoru Tanaka, Naohiro Kanayama, Satoru Takeda: Risk of preterm birth after the excisional surgery for cervical lesions: a propensity-score matching study in Japan. Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine, Vol. 32, Epub ahead of print, 2020

Miyuki Mayumi, Mana Obata-Yasuoka, Hiromi Hamada, Toyomi Satoh, Yumiko Oishi Tanaka, Kouji Masumoto: Fetal magnetic resonance imaging is a useful modality for prenatal diagnosis of obstructed hemivagina and ipsilateral renal anomaly syndrome. Clinical and Experimental Obstetrics & Gynecology, Vol. 46(4), 651-653, 2019

Kinji Furuya, Yun-Wen Zheng, Daisuke Sako, Kenichi Iwasaki, Dong-Xu Zheng, Jian-Yun Ge, Li-Ping Liu, Tomoaki Furuta, Kazunori Akimoto, Hiroya Yagi, Hiromi Hamada, Hiroko Isoda, Tatsuya Oda, Nobuhiro Ohkohchi: Enhanced hepatic differentiation in the subpopulation of human amniotic stem cells under 3D multicellular microenvironment. World Journal of Stem Cells, Vol. 11(9), 705-721, 2019

Yasuko Ikeda-Sakai, Yoshiyuki Saito, Taku Obara, Mikako Goto, Tami Sengoku, Yoshimitsu Takahashi, Hiromi Hamada, Takeo Nakayama, Atsuko Murashima: Inadequate folic acid intake among women taking antiepileptic drugs during pregnancy in Japan: A cross-sectional study. Scientific Reports, Vol. 9(1), 13497, 2019

Ayako Tsumagari, Rena Ohara, Miyuki Mayumi, Hiroya Yagi, Yuko Nagai, Mana Obata-Yasuoka, Hiromi Hamada, Toyomi Satoh: Clinical characteristics, treatment indications, and treatment algorithm for postpartum hematomas. Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, Vol. 45(6), 1127-1133, 2019

<和文原著論文>

宮本和恵, 小島真奈, 堤 春香, 木村友沢, 津曲綾子, 細川義彦, 飯場萌絵, 西田恵子, 阿部春奈, 大原玲奈, 八木洋也, 佐藤豊実, 濱田洋実: 産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017「妊娠・授乳と薬」関連 CQ & A に対する小児科医師の認知と評価、日本周産期・新生児医学会雑誌、56(1)、印刷中、2020

小島真奈, 木村友沢, 津曲綾子, 細川義彦, 飯場萌絵, 西田恵子, 阿部春奈, 大原玲奈, 八木洋也, 佐藤豊実, 濱田洋実: 産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017「妊娠・授乳と薬」関連 CQ & A に対する病院薬剤師の認知と評価、日本周産期・新生児医学会雑誌、55(3): 764-768、2019

金井 雄, 酒井愛子, 宮園弥生, 齋藤 誠, 西村一記, 永藤元道, 竹内秀輔, 梶川大悟, 日高大介, 濱田洋実, 高

田英俊：軽症妊娠糖尿病母体児の血糖管理についての検討-母体の75gOGTTにおける1ポイント陽性群と2ポイント以上陽性群の比較-、日本周産期・新生児医学会雑誌、55(1): 56-61、2019

前田瑛子、本多裕子、濱田洋実：女性の視点から捉えた助産師のケアに対する受け止め-院内助産でお産を経験した女性の質問紙調査からの質的分析-、母性衛生、60(1): 208-212、2019

<和文総説>

飯場萌絵、大原玲奈、濱田洋実：温泉旅行に行ってもよいですか？（増刊「周産期相談 310 お母さんへの回答マニュアル 第3版」）、周産期医学、49(増刊): 171-172、2019

細川義彦、八木洋也、濱田洋実：常位胎盤早期剥離について教えてください（増刊「周産期相談 310 お母さんへの回答マニュアル 第3版」）、周産期医学、49(増刊): 173-174、2019

濱田洋実：性分化「総論」、日本産科婦人科学会雑誌、71(11): 2435-2439、2019

濱田洋実：妊婦への投与禁忌薬剤は？、日本医事新報、4962: 46-47、2019

細川義彦、小島真奈：妊産褥婦の合併疾患への対処法「その他 外傷/交通外傷」（特集「産婦人科救急・当直対応マニュアル」）、臨床婦人科産科、73(4): 341-346、2019

濱田洋実：日本の添付文書と海外の胎児リスク評価の現状（特集「妊娠と薬の使い方」）、日本医師会雑誌、148(2): 241-245、2019

小島真奈：妊娠中禁忌のくすり、その歴史的背景（特集「周産期のくすり大事典 妊娠期・分娩時・産褥期・新生児の薬剤&ワクチン 133 大解説」）、ペリネイタルケア、2019 新春増刊: 19-23、2019

小島真奈：周産期のくすり「もう添付文書は怖くない!」（特集「周産期のくすり大事典 妊娠期・分娩時・産褥期・新生児の薬剤&ワクチン 133 大解説」）、ペリネイタルケア、2019 新春増刊: 14-18、2019

<和文著書>

濱田洋実：妊娠・授乳と薬、産科婦人科疾患最新の治療 2019-2021（吉川史隆、平松祐司、大須賀 穰編）、南江堂、東京、14-21、2019

濱田洋実：妊娠とくすり、今日の処方 改訂第6版（浦部晶夫、島田和幸、川合眞一総編集）、南江堂、東京、673-677、2019

濱田洋実：妊娠と感染症、今日の治療指針 2019年版（福井次矢、高木 誠、小室一成総編集）、医学書院、東京、1345-1348、2019

濱田洋実：女性ホルモン製剤、子宮用剤、今日の治療薬 2019年版（浦部晶夫、島田和幸、川合眞一編）、南江堂、東京、414-432、2019

【学会発表】

<一般口演・ポスター発表>

小西久美、加藤 京、梅澤理恵子、小島真奈、濱田洋実、土岐浩介、本間真人：「授乳と薬」外来における相談内容の解析（第3報）～授乳に関する分類評価～、第40回日本臨床薬理学会学術総会、2019

濱田洋実：添付文書の問題点と記載要領改定のポイント（シンポジウム「最新の知見に基づいた周産期における薬物治療のあり方とは何か」）、第32回日本総合病院精神医学会総会、2019

宮代夢子、阿部春奈、諫山瑞紀、小島佑基、飯場萌絵、大原玲奈、八木洋也、小島真奈、濱田洋実：体重減少を契機に診断された結核合併妊娠の1例、第189回茨城産科婦人科学会（第41回茨城医学会産婦人科分科会）、2019

名倉弓子、松尾亜有美、石塚早織、白根みゆき、楠見由里子、根本清貴、小島真奈、濱田洋実：助産師による産後

2 週間健診の効果 -エジンバラ産後うつ病評価スケールの変化からの分析-、第 16 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会、2019

堤 春香, 細川義彦, 飯場萌絵, 阿部春奈, 大原玲奈, 八木洋也, 小島真奈, 濱田洋実, 高橋実穂: 胎児心房粗動の臨床像、第 138 回関東連合産科婦人科学会学術集会、2019

小名 徹, 有田美和, 石津智子, 濱田洋実, 野口恵美子, 家田真樹: 筑波大学附属病院における遺伝性結合組織疾患の診療連携の取り組みと課題、第 43 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会、2019

細川義彦, 佐藤莉都, 飯場萌絵, 大原玲奈, 八木洋也, 小島真奈, 濱田洋実: 妊娠・分娩に伴い S 状結腸穿孔、卵巣膿瘍を発症した子宮内膜症の 1 例、第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会、2019

東 福祥, 飯場萌絵, 佐藤莉都, 原 絢香, 筑田陽子, 阿部春奈, 大原玲奈, 八木洋也, 高橋実穂, 小島真奈, 濱田洋実, 佐藤豊実: 胎児治療を行った母体抗 SS-A 抗体陽性による胎児完全房室ブロックの症例、第 137 回関東連合産科婦人科学会学術集会、2019

細川義彦, 堤 春香, 宮本和恵, 東 福祥, 飯場萌絵, 西田恵子, 阿部春奈, 大原玲奈, 八木洋也, 小島真奈, 濱田洋実, 佐藤豊実: 予定帝王切開設定時期の変更による母児の周産期予後の検討、第 71 回日本産科婦人科学会学術講演会、2019

堤 春香, 大原玲奈, 木村友沢, 細川義彦, 西田恵子, 飯場萌絵, 阿部春奈, 八木洋也, 小島真奈, 濱田洋実, 佐藤豊実: 妊娠中に胎児卵巣嚢腫が疑われた 40 例の診断と転帰に関する検討、第 71 回日本産科婦人科学会学術講演会、2019

小島真奈, 濱田洋実, 筑田陽子, 木村友沢, 津曲綾子, 細川義彦, 飯場萌絵, 西田恵子, 阿部春奈, 大原玲奈, 八木洋也, 佐藤豊実: 病院薬剤師における産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017「妊娠・授乳と薬」関連 CQ & A の認知状況、第 71 回日本産科婦人科学会学術講演会、2019

八木洋也, 濱田洋実, 渡辺麻紀子, 細川義彦, 津曲綾子, 西田恵子, 飯場萌絵, 阿部春奈, 大原玲奈, 小島真奈, 佐藤豊実: 初期臨床研修における『妊娠・授乳と薬』に関する研修の現状、第 71 回日本産科婦人科学会学術講演会、2019

笠原 淳, 石井桂介, 宮下 進, 濱田洋実, 馬場一憲, 左合治彦, 大西庸子, 中田雅彦, 須波 玲, 高桑好一, 吉田志朗, 村越 毅, 小谷友美, 高橋雄一郎, 近藤英治, 味村和哉, 廣瀬雅哉, 船越 徹, 田中宏幸, 長谷川雅明, 原田 崇, 加地 剛, 越智 博, 前田和寿, 永井立平, 日高庸博, 月森清巳, 野見山 亮, 土井宏太郎: 本邦における臍帯穿刺に関する実態調査～多施設共同研究～、第 71 回日本産科婦人科学会学術講演会、2019

濱田洋実: 生涯研修プログラム「性分化総論」、第 71 回日本産科婦人科学会学術講演会、2019

古屋欽司, 佐古大輔, 鄭 東旭, 岩崎健一, 梁 宸, 古田智章, 葛 剣云, 劉 莉萍, 打田慶明, 八木洋也, 濱田洋実, 磯田博子, 大河内信弘, 鄭 允文: 胎盤組織由来体性幹細胞を用いた三次元多細胞共培養法による肝性分化誘導の探索、第 18 回日本再生医療学会総会、2019

西久保愛里, 甲斐平康, 田原 敬, 角田亮也, 河村哲也, 永井 恵, 藤田亜紀子, 金子修三, 森戸直記, 白井丈一, 斎藤知栄, 山縣邦弘, 濱田洋実: 妊娠中にネフローゼ症候群を発症し、ステロイド治療により寛解後、正常分娩し得た一例、第 29 回腎と妊娠研究会、2019

鄭 允文, 佐古大輔, 古屋欽司, 聶 運中, 八木洋也, 濱田洋実, 秋本和憲, 磯田博子, 谷口英樹, 大河内信弘: 幹細胞からオルガノイドへと肝再生の道、第 10 回生体表面研究会、2019

Kensaku Mori, Tsukasa Saida, Sodai Hoshiai, Yoko Shibuya, Mana Obata, Hiromi Hamada, Toyomi Satoh, Manabu Minami: Collateral arteries toward the gravid uterus in placenta accreta spectrum: a case-control study using unenhanced magnetic resonance angiography, European Congress of Radiology 2019, 2019

Naomi Nakazawa, Tomoko Ishizu, Yasutoshi Boku, Daisuke Hidaka, Hidekazu Nishikii, Mana Obata, Chiho Tokunaga, Yuichi Hasegawa, Yayoi Miyazono, Yoshihiro Seo, Masaki Ieda: The anti-coagulant management of the pregnant complicating the mechanical valve and anti-phospholipid antibody syndrome, The 21st Annual Scientific Meeting of Japanese Society for Adult Congenital Heart Disease, 2019

<その他>

濱田洋実：日本における医薬品添付文書の現状と今後、日本先天異常学会 第 19 回生殖発生発達教育セミナー、2019

濱田洋実：日本の医薬品添付文書の現状と今後について、第 13 回妊娠と薬情報センター業務研修会、2019

つくば市バースセンター施設整備の進捗について

1. 施設整備建物及び場所

筑波大学附属病院B棟6階

2. 病室数及び面積

(1) 病室数 個室12室 (LDR配備)

(2) 諸室 受付・待合室、診察・検査室、スタッフステーション等

(3) 面積 約2,000㎡ (病室、諸室及び廊下等の共有部分を含む。)

3. 供用開始時期 (予定)

令和5年7月

※ 現時点における供用開始時期であり、今後の社会情勢の変化等に応じて供用開始時期が延伸することもあり得る。

4. 供用開始に向けた工程

(1) 令和元年6月 優先交渉権者決定 (株)大林組

(2) 令和元年7月 基本協定・設計業務委託契約

(3) 令和2年9月 工事請負契約の締結

(4) 令和2年10月～令和5年12月 B棟全面改修

※ 令和5年1月～令和5年6月 つくば市バースセンター施設整備

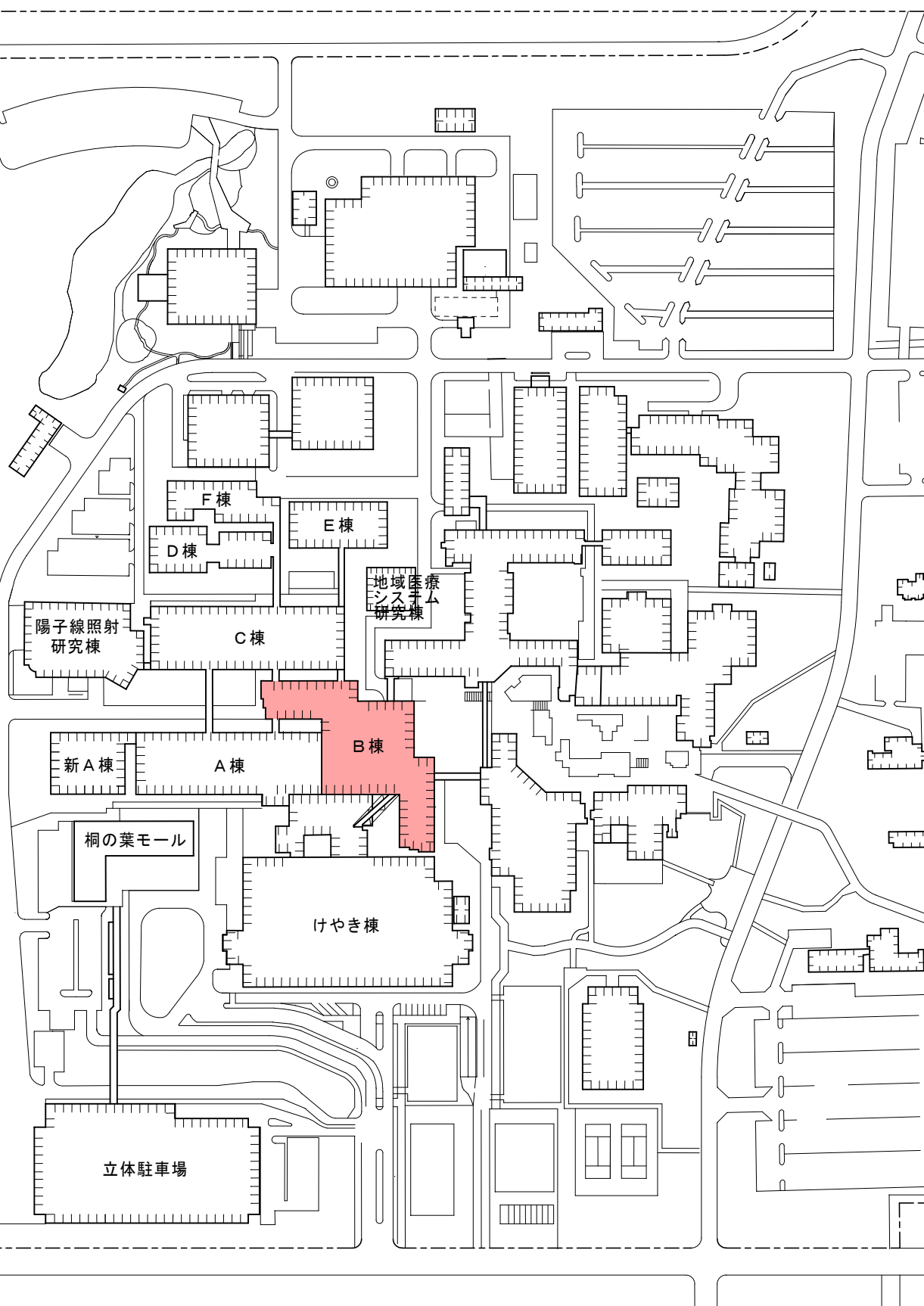
5. 参考情報

今般のB棟全面改修に伴い、現在けやき棟5階に位置するNICU及びGCUを各々6床増床してB棟5階 (つくば市バースセンターの階下) に移転拡充する。

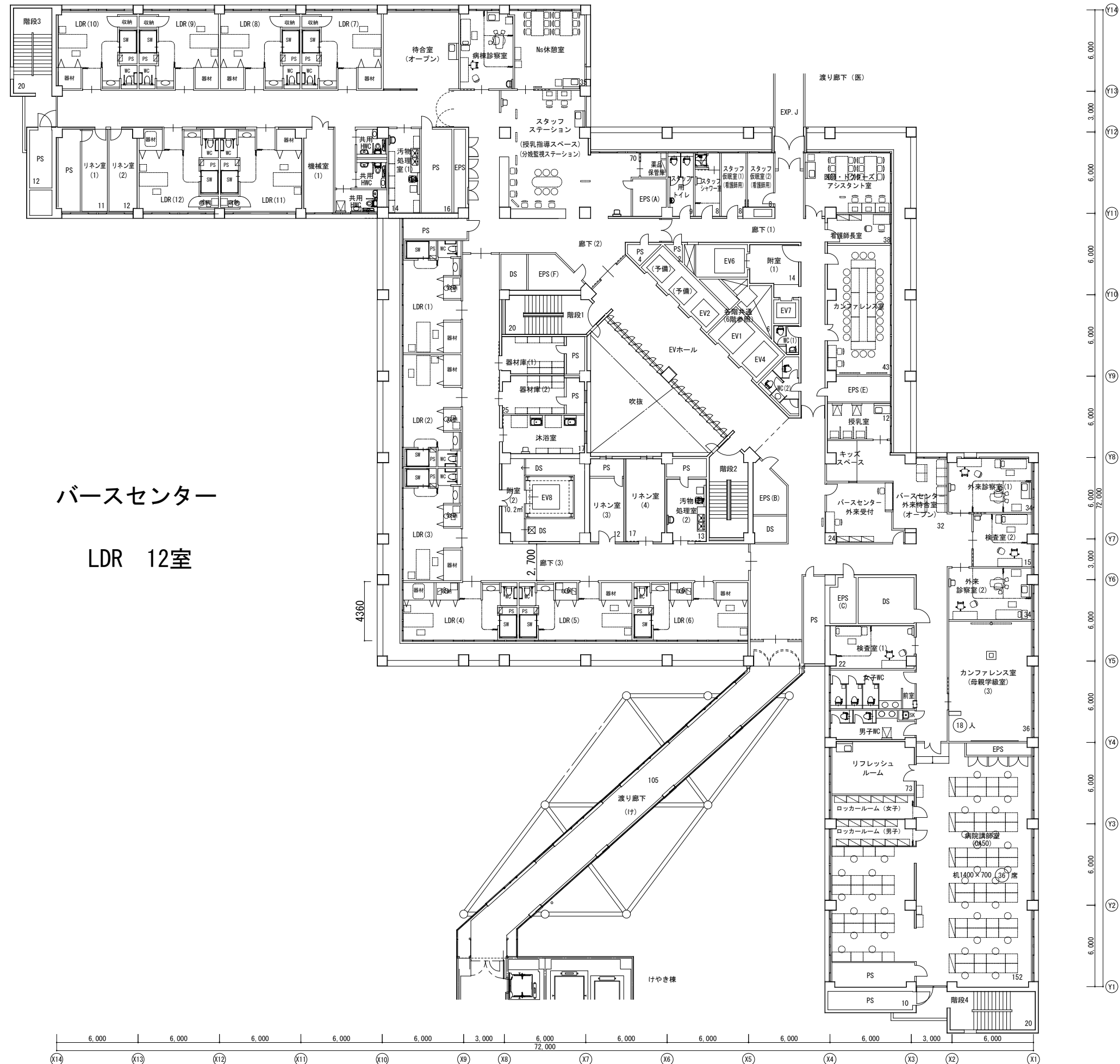
・NICU 15床 ← 9床

・GCU 24床 ← 18床

国道408号線（学園西大通り）



西地区配置図



バスセンター
LDR 12室

A3:1/300

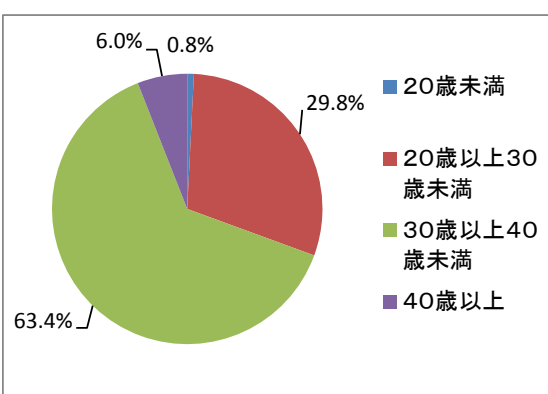
(令和元年)あかちゃん訪問調査時における市民の出産場所等に関するアンケート調査

- 1 調査の目的 本調査は、市民の出産場所に関する状況把握のため実施
- 2 調査期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日(12ヶ月分) * 現在もアンケート調査は継続
- 3 調査対象 主に市内に住所を有する、概ね生後4ヶ月未満の赤ちゃんを持つ母親
- 4 配布枚数 2,302枚
- 5 回収枚数 2,035枚
- 6 回収率 88.4%
- 7 調査方法 保健師の戸別訪問時に記名式アンケートを行う。
* 質問項目により、無回答のものも散見している。

■母親の年齢

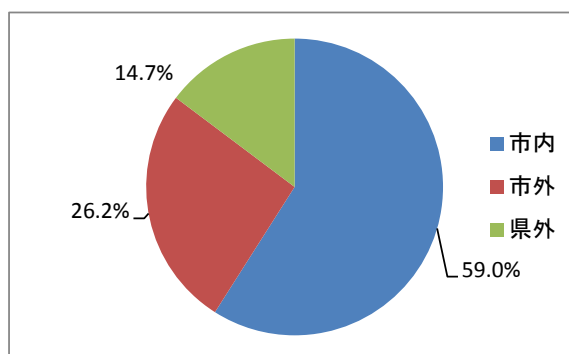
		回答(人)	割合
1	20歳未満	16	0.8%
2	20歳以上30歳未満	605	29.8%
3	30歳以上40歳未満	1288	63.4%
4	40歳以上	121	6.0%
	合計	2,030	100.0%

* 30歳以上が全体の70%近くを占めている。



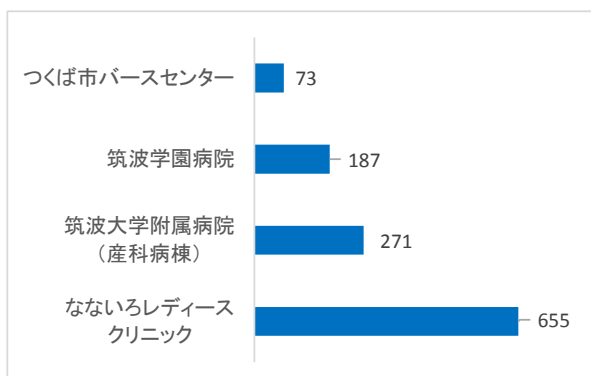
■出産した医療機関

		回答(人)	割合
1	市内	1,201	59.0%
2	市外	534	26.2%
3	県外	300	14.7%
	合計	2,035	100.0%



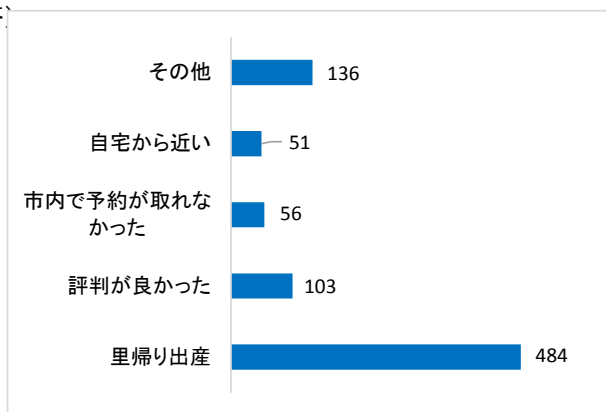
■出産した市内の医療機関

		回答(人)	割合
1	なないろレディースクリニック	655	55.2%
2	筑波大学附属病院(産科病棟)	271	22.8%
3	筑波学園病院	187	15.8%
4	つくば市バースセンター	73	6.2%
	合計	1,186	100.0%



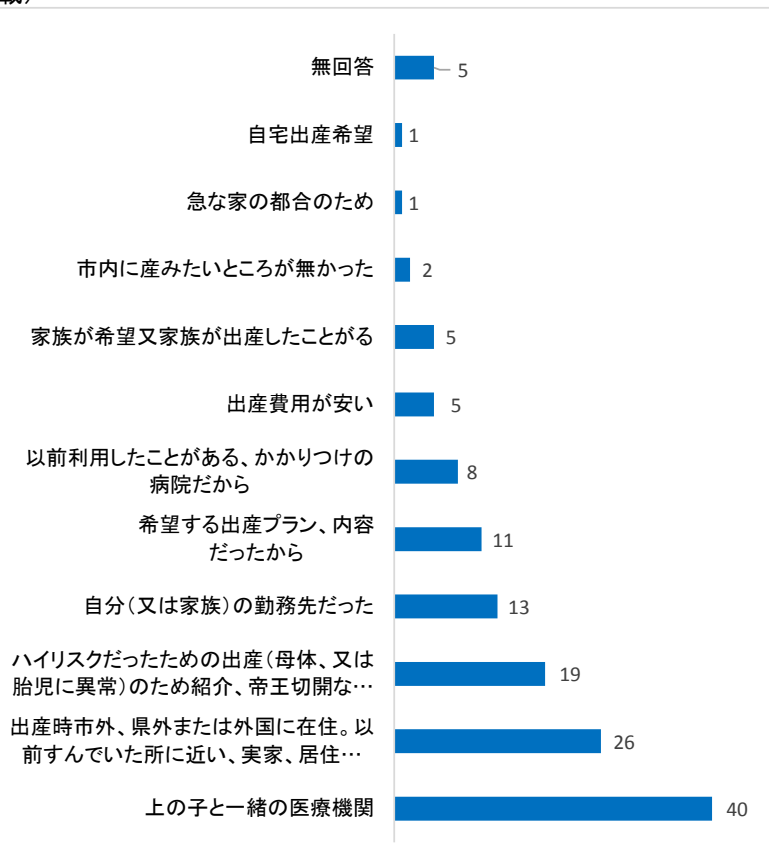
■県内・県外の医療機関で出産した理由（複数回答）

		回答(人)	割合
1	里帰り出産	484	58.3%
2	評判が良かった	103	12.4%
3	市内で予約が取れなかった	56	6.7%
4	自宅から近い	51	6.1%
5	その他	136	16.4%
合計		830	100.0%



■上記項目の「その他」の内訳（自由記載）

主な理由	件数(件)
上の子と一緒に医療機関	40
出産時市外、県外または外国に在住。以前すんでいた所に近い、実家、居住地、勤務地に近い	26
ハイリスクだったための出産（母体、又は胎児に異常）のため紹介、帝王切開などによる出産	19
自分（又は家族）の勤務先だった	13
希望する出産プラン、内容だったから	11
以前利用したことがある、かかりつけの病院だから	8
出産費用が安い	5
家族が希望又家族が出産したことがる	5
市内に産みたいところが無かった	2
急な家の都合のため	1
自宅出産希望	1
無回答	5
合計	136



■出産に関する意見・要望（自由記載）

・産婦人科病院が増えてほしい	2
・産後ケアの申し込みが電話でできるといい	2
・上に子どもがいても安心して出産できる体制を希望	2
・パースセンターのことを知りたかった	1
・妊婦タクシー、健診タクシーがあると助かる	1
・ネウボウ的支援体制を早く整えてほしい	1
・初産は授乳間隔等で悩むので細やかなケアを提供してほしい	1
・妊婦健診等のクーポンを増やしてほしい	1
・つくたくがもっと便利になるといい	1
・市内の分娩可能な医療機関の情報を提供してほしい	1
・産後、産褥ヘルプを受けて助かった	1
・里帰りに間に合うように先方の病院との県外受診の手続きが終わるようにしてほしい	1